

■醍醐天皇 60代天皇。宇多天皇の第1皇子。藤原時平没後、菅原道真の崇りを怖れながら、見かけ上親政で"延喜の治"。

だいごてんのう

・ ・ ・ ・ ・ 885 = 誕生。宇多天皇の第1皇子。母は藤原朝臣高藤の女胤子。

・ ・ ・ ・ ・ 889 = 4歳：親王となり，
基経関白辞任 890 = 5歳：本名維城を敦仁に改めた。

・ ・ ・ ・ ・ 893 = 8歳：_皇太子に立てられ，初めて東宮に移る。
遣唐使廃止・ 894 = **9歳**：
・ ・ ・ ・ ・ 895 = 10歳：生母胤子が卒去したので，藤原基経の女温子(宇多女御)が養母となる。

醍醐天皇・ ・ 897 = 12歳：*元服し，宇多の譲位をうけて践祚。宇多は醍醐にいわゆる「寛平御遺誡」を与えるとともに，天皇いまだ長ぜざる間は，大納言藤原時平と権大納言菅原道真に万機を行なうよう命じた。

・ ・ ・ ・ ・ 900 = 15歳：外祖父内大臣藤原高藤が薨じたので，太政大臣正一位を追贈。
菅原道真左遷 901 = 16歳：_藤原時平らの讒言により菅原道真を大宰権帥に左遷。

道真没・ ・ ・ 903 = **18歳**：基経の女穂子が第2皇子崇象を生むと，時平は上表して皇太子を立てることを請うた。そこで，
・ ・ ・ ・ ・ 904 = 19歳：皇子崇象を親王とし，次いで皇太子に立てる(のち保明と改名)。

・ ・ ・ ・ ・ 906 = 21歳：朱雀院に行幸して，宇多法皇の四十の宝算を祝賀し，

藤原時平没・ 909 = 24歳：*時平の死去後は，藤原忠平とも対立することなく，宇多上皇とともに三者一体的な政治を行い，

・ ・ ・ ・ ・ 912 = **27歳**：

・ ・ ・ ・ ・ 916 = 31歳：同じく朱雀院に行幸し，法皇の五十を祝賀した。

・ ・ ・ ・ ・ 921 = **36歳**：

道真本官復位 923 = 38歳：*皇太子保明親王が薨じ，世はあげて菅原道真の崇りによるとしたため，道真を右大臣に復し，正二位を贈る。女御藤原穂子を皇后に，保明親王の子慶頼王(母は藤原時平の女)を皇太子に立てる。

・ ・ ・ ・ ・ 924 = 39歳：醍醐は四十になったので，宇多法皇を始め，延暦寺・興福寺の僧らが四十の宝算を祝賀したが，
・ ・ ・ ・ ・ 925 = 40歳：皇太子慶頼王も死去したので，改めて穂子の生んだ寛明親王を皇太子に立てる。

渤海滅亡・ ・ 926 = 41歳：宇多法皇の六十の宝算を祝賀，京辺七寺・南都七寺に，法皇の宝寿を増さんがために諦経を修せしめた。

忠平摂政復活 930 = **45歳**：*雷が清涼殿に落ち，大納言藤原清貫らが薨ずるという事件があり，これを契機に病気となり，平癒の修法もむなしく，麗景殿において譲位し，朱雀天皇に遺戒し，出家ののち，父宇多法皇に先立って崩御。